

氏名	平田 沙織			
学位の種類	博士 (経営学)			
学位記番号	博甲第 203 号			
学位授与の日付	2016 年 3 月 31 日			
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当			
学位論文の題目	社会福祉法人における情報開示に関する研究 —統合報告書の導入可能性を中心に—			
論文審査委員	主査	神奈川大学	教授	照屋 行雄
	副査	神奈川大学	教授	田中 則仁
	副査	神奈川大学	教授	関口 博正
	副査	神奈川大学	准教授	真鍋 明裕
	副査	横浜国立大学	名誉教授	若杉 明

## 【論文内容の要旨】

現在、企業の開示情報の内容は大きく 2 つに分けられる。すなわち財務情報と非財務情報である。財務情報は、財務諸表、計算書書類、決算短信などの記載情報であり、非財務情報は、リスク情報、コーポレート・ガバナンス報告書、CSR 報告書、環境報告書、サステナビリティ報告書の記載情報である。年次レポートや有価証券報告書は、財務情報と非財務情報を合わせて開示する形式の報告書となっている。

近年、この財務情報と非財務情報を統合して開示するという企業が増加している。「統合報告」という新しい報告形態として注目されてきている。その背景としては、第一には、財務情報のみでは企業の価値創造の中・長期的プロセスが十分に利害関係者に伝達できないという課題を解決するためである。そして第二には、財務情報の開示に加えて、非財務情報が種々の形態で開示されることにより開示情報の内容が複雑化したためである。

利害関係者が企業の実態に精通し、合理的な意思決定を行うことができるように支援するために、最近では、財務情報と非財務情報を経営戦略や中・長期的な企業の価値創造という視点でまとめた、統合報告書という新しい形態の情報開示にシフトし始めている。この統合報告への転換には、リーマン・ショックの経験から短期的な経営ではなく、中・長期的な経営が重要視されるようになったことが大きな契機となっている。

統合報告による情報開示の実態については、これまでのところ優れた統合報告書を取り上げて、模範的な作成事例として分析しているケースがあるものの、あくまで個別の事例の分析に留まるため、全体的な開示実態の把握は不十分となっている。上場企業を中心として一般事業会社で統合報告を導入している実態と今後の動向についての調査研究は、研究者のこれからの努力に期待されている。他の各種事業組織における統合報告の導入可能性もこれからの探求となる。

社会福祉法人においても、適切な情報開示を求める動きが高まってきたことや、法人の経営戦略

や事業方針を利害関係者により深く理解して欲しいとの要望を受けて、法人の価値創造プロセスを中・長期的に俯瞰できる情報開示が必要とされている。加えて、法人組織のガバナンスや福祉活動のコンプライアンスの問題が注目されてきている。そのためCSR 報告書などの個別の報告書を作成するだけでなく、一般事業会社で導入が広がっている統合報告書の作成が求められている。

そこで、本論文では、すでに統合報告書を導入している企業の実態と開示情報の内容を研究分析し、社会福祉法人における情報開示の現状と統合報告書導入の可能性について考察している。本論文では、社会福祉法人における利害関係者に有用な情報を提供するためには、どのような情報内容を、どのような形態で実施するかという観点から考察している。結論的には、社会福祉法人の新しい情報開示システムとして統合報告書の導入が強く求められてくることを立証している。

第Ⅰ部では、社会福祉法人の事業特性と経営について述べている。まず第1章では、社会福祉法人の目的と事業特性に触れ、社会福祉法人という組織について概観している。また第2章では、その社会福祉法人を取り巻く経営環境について考察し、社会福祉法人の経営特質を明らかにしている。そして第3章では、社会福祉法人の経営課題の重要な1つに、前章での分析を通じて明らかとなった法人の組織および事業経営に関する情報開示があることを指摘している。

次に第Ⅱ部では、社会福祉法人における情報開示が不十分という課題について考察するに当たって、その基盤となる社会福祉法人の情報開示制度を会計および監査の視点から整理している。まず第1章では、社会福祉法人の会計基準を体系的に考察し、その特徴を明らかにしている。また第2章では、社会福祉法人の監査制度について明らかにし、監査の側面からも情報開示が不十分であることを指摘している。そして第3章では、社会福祉法人の情報開示の現状と課題を整理している。

また第Ⅲ部では、社会福祉法人の情報開示の課題について、非財務情報の開示要請の観点から問題解決へのアプローチを行っている。まず第1章では、株式会社の情報開示の現状と課題、および非財務情報の内容とその有用性について詳細に考察している。また第2章では、統合報告書の導入が企業における経営の透明性向上に役立つことを明らかにしている。そして第3章では、社会福祉法人への統合報告書の導入が法人経営の透明性確保に効果的であることを明確にしている。

そして第Ⅳ部では、本論文のテーマである社会福祉法人における統合報告書の導入可能性を探究している。まず第1章では、統合報告書の目的や基準、構成要素など統合報告書導入のための枠組みを明らかにしている。また第2章では、統合報告書の開示モデルを分析し、価値創造プロセスの統合報告書での開示について検証を行っている。そして第3章では、社会福祉法人の持続的な発展のために統合報告の効果と統合報告書導入の課題が明示されている。

本論文の特徴は、財務情報と非財務情報をインテグレートした統合報告書を社会福祉法人の新しい情報開示の方法として提示し、その導入に当たっての情報体系と開示形態のモデル提示を行い、導入に当たっての課題を明らかにした点にある。本論文では、統合報告書を作成している企業の数が現段階では少ないため、実態分析の範囲は限定的となっているが、今後は統合報告書を作成する組織の増大に伴って、開示された統合報告書の分析が量的にも質的にも充実することが期待される。

社会福祉法人における統合報告書は、長期的な経営戦略やガバナンス、さらには地域社会への貢献や環境保護といった社会的評価に繋がる信頼性の高い情報を提示することによって、利害関係者の正しい判断形成を支援し、行動変化を導く効果が期待されている。社会福祉法人は、財務情報報告だけでなく、非財務情報を統合報告の中で開示することによって、効果として利害関係者の行動変化を導くこととなる。

社会福祉法人における統合報告の導入によって、社会福祉法人の中・長期的な経営戦略と法人の

財務基盤たる資本属性を踏まえた法人の価値創造へ向けて、統合報告書がその価値を発揮することができるといえる。今後、社会福祉法人は、情報開示の一つの方法として統合報告書を効果的に活用し、社会福祉法人のさらなる持続的発展が期待できる。本論文は、このような展望の下で、我が社会の繁栄と人々の幸福に貢献することを願う筆者の思想を反映した重厚な論考となっている。

## 【論文審査の結果の要旨】

本論文は、社会福祉法人における情報開示の実態とその問題点を明らかにするとともに、法人の組織特質と事業特性を反映した新しい情報開示システムの導入を究明しようとしたものである。社会福祉法人は、すぐれて公益性の高い事業体であるため、資金提供者や公的機関のみならず、施設利用者や地域住民など各種利害関係者に、法人に関する情報を適時適切に開示することが求められている。また、開示情報の理解可能性も強く求められる。

本論文では、まず社会福祉法人の事業特性と経営組織の基本について、制度上の体系を考察するとともに、法人経営の実態を詳細に分析している。そして社会福祉法人が、従来の福祉行政主導型から社会施設経営型へ大きくシフトする展開の中で、社会福祉法人の社会的責任の重要性を指摘している。社会福祉法人の経営実態の分析から幾つかの重要な経営課題を導出してあるが、その中でも特に重要となる情報開示のあり方について焦点を当てて考察を深める論述となっている。

社会福祉法人の情報開示では、まず現行の制度的な財務情報開示とその課題を明らかにするために、社会福祉法人会計の構造と監査制度の体系を詳細に考察している。ここでは、社会福祉法人の経営実態を反映した情報開示を確保するために、現行の財務情報開示では十分ではなく、法人の経営戦略やリスク管理、環境対応ビジョン、事業活動のガバナンスやコンプライアンス、持続的成長の達成プロセスなどの非財務情報の開示が重要となることが指摘されている。

そこで、株式会社形態などの一般事業会社で導入が増大している統合報告書について、その実態の分析はもとより、開示情報の範囲や開示形態などを規定する概念フレームワークを検討することにより、社会福祉法人への導入のあり方を理論的・実践的に解明している。社会福祉法人の統合報告書のあり方については、IIRCの国際統合報告フレームワークを十分に分析した上で、社会福祉法人固有のフレームワーク・モデルを開発し、統合報告導入の基盤形成を図っている。

本論文では、社会福祉法人への統合報告書の導入の意義と今後の展開方向を示すとともに、統合報告書作成の理論的枠組みとなる独自の開示モデルを提示している。社会福祉法人でのこの分野の研究は、学界や研究者間にあっても筆者が先行しており、その積み重ねた研究成果が本論文内容の質的高さに十分に反映されているものと評価される。同時に、今後の研究の中・長期的発展が期待される。よって、博士の学位を授与するに値する相当なレベルに達しているものと認める。